

# 令和5年度 第2回みんなで支える森林づくり北アルプス地域会議

開催日時 令和5年11月10日（金）13:00～16:10

開催場所 大町市美麻二重地区、白馬村 HAKUBA COFFEE STAND、大町合同庁舎 101 号会議室

出席委員 鈴木幸佳委員、橋本拓委員、宮澤洋介委員、割田俊明委員

事務局 早川地域振興局長、藤澤林務課長、西澤林務係長、高野普及林産係長

## 1 現地視察

(1) 令和4年度県民協働による里山整備・利用事業実施地（大町市美麻二重地区） **資料1**

- ・ふたえ里山整備協議会が主体となり、里山整備利用地域に指定し、令和2年度より森林整備を実施している。
- ・地域材利活用ワークショップや安全技術研修を実施するとともに、遊具を設置しイベントを開催するなどの活動も行っている。

(2) 令和4年度木づかい空間整備事業実施地（白馬村 HAKUBA COFFEE STAND） **資料2**

- ・白馬駅前のコーヒーショップ店内の壁の木質化とカウンターやテーブル等の調度品を設置した。



(大町市美麻二重地区の状況を視察)



(白馬村 HAKUBA COFFEE STAND を視察)

## 2 会 議

(1) あいさつ

(早川地域振興局長)

今年は、クマの出没や人身被害が多くなっており、管内でも先週大町市で発生した。

森林税事業においても「野生鳥獣による被害防止のための森林整備」の取組を支援しているため、このような取組を通じて森林税への県民理解を促進していきたい。

本日は、今年度の森林税活用事業の実施状況等を説明させていただくので、ご意見をいただき、今後の取組に反映させていきたい。

委員におかれては、任期最後の会議となる。3年間、森林税を含めこの地域の森林・林業全般にわたりご意見、ご提言を賜り感謝申し上げます。

(2) 会議事項

ア 第3期森林づくり県民税活用事業の実施状況及び検証・評価について

**資料3**

イ 令和5年度森林づくり県民税活用事業の進捗状況について

**資料4**

(橋本委員)

資料3の6ページ、執行額が税込を8千万円下回ったことについて、事業体としては、記載理由により実施できなかったことはなく、もっと予算があれば実施できた。メニューは増えたが、使い勝手の悪さがこの原因ではないかと思うので、使い勝手の改善をお願いしたい。

この地域は主伐を実施すべきでない森林が多いので、このような地域でも森林整備が進むよう環境林として整備できるメニューを追加するなどの対応が必要である。

再造林においては種苗対策が非常に重要である。現在、良い苗が確保できない状況で植栽しても1、2年後に枯れる苗木がある。種苗の取組は、20年後、30年後に影響が出ることなので、現状の対応では足りないと感じている。早急に取り組んでほしい。

この地域は下層植生が多く県外の来訪者は驚かれるが、その下層植生にシカの食害が出はじめています。対策としては、シカを減らすしかないで、狩猟対策が重要となる。誰かがやらなければいけないが、地元猟友会だけでは不可能である。これ以上増える前に始めなければいけないので、今後対応できる事業を検討してほしい。

(鈴木委員)

第4期の新しい事業が使いやすくなって利用が拡大することを期待していたが、要望なしの事業が多く残念です。

使いたい人はいるけどそこまで情報が届かないので、森林税の取組がうまく届く仕組みづくりが必要だと思う。

(宮澤委員)

森林整備等を実施する上でも生物多様性への配慮が必要である。事業実施に当たっては貴重な野生動植物など保護しなければいけない動植物を事前に調査するなど適切な配慮をしてほしい。

(割田委員)

開かれた里山整備事業の実施基準が厳しいため、広域的な取組も対象にするなどもう少し使いやすくしてほしい。広域的に観光等の他分野と連携した取組が実施できないと真に開かれた里山にならないと思う。県民参加を目指すなら広域的に取り組む必要があるため、6年度以降内容の検討をお願いしたい。

森林整備等の予算財源には、森林環境税、森林税、通常の補助事業があるが、これを使い分けすることも大事だが、より連携させて効果的な取組が行えるように進めていくことが県民理解につながると思われるため、今後検討してほしい。

(3) その他 (各委員から最後に一言)

(鈴木委員)

この会に参加して、いろいろな仕組みを勉強するいい機会になった。去年から今年にかけて上田西高校など県内の高校生の受け入れをしていたが、今年は10月、11月に香港の学生20人と全国で展開している通信制のN高の学生を受け入れた。林業は自然破壊ではなく森を守る仕事であることなどを理解してもらったので、このような機会をもっと増やしていきたいと思っている。今後も教育の面で森には関わっていきたい。

(橋本委員)

森林税は使い勝手が悪いため、不執行額が出てしまうと思うので、そこが課題である。

事業周知のためのPR方法は、今行っているイベントの際の広報などでは弱いため、違うやり方があると思う。我々も協力できることはやっていきたいし、PRは自社でも重要だと思っているので、力をいれてほしい。県民税の使われ方などが関心の低い人にもわかるような広報が必要であり、効果的な広報を行っていけば、使いたい人も出てくる。県民税が正しく使われていることを含めて透明性の確保が重要だと思う。

(宮澤委員)

観光ガイドとして案内する際に、森林税の使途は参加者の方も関心があるため、ガイドのネタに使うこともあった。この会議で、見晴らしを良くするために木の伐採を要望したが、その後間伐が行われ見晴らしがよくなった。このような森林整備も続けてほしい。これからも森林でガイドを続けていくので、森林の勉強をしていきたい。

(割田委員)

私は毎回出席するように努めてきたが、会議で全ての委員が揃ったことがなかったので、貴重な意見をもらう場であるため、全員が出席できるように調整して開催してほしい。

次の委員は、広報を進める上でも、教育・観光等幅広い分野から人選してほしい。

他の委員の方からも意見が出たように、森林税は広報が課題である。現在の広報は、使途をまとめて広報しているが、取組事例を個々に取り上げて広報する(新聞記事に掲載等)など県民が関心を寄せるような工夫をお願いしたい。

この会議には林務課以外の担当者は出席していないが、林務課以外で実施している事業もあるため、今後は建設事務所等の会議への出席を検討願いたい。

幅広い分野の委員と林務課以外の担当課所が参加することで、まさに「みんなで支える森林づくり」となっていくと思う。

